

2018年8月27日

経済レポート

グラフで見る関西経済(2018年8月)

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

【今月の景気判断】

関西経済は緩やかに持ち直している。

項目	現状(8月)	前月
1. 景気全般	緩やかに持ち直している	-
2. 生産	横ばい圏で推移している	-
3. 輸出入	輸出は増加基調、輸入は横ばい	-
4. 設備投資	持ち直している	-
5. 雇用	改善している	-
6. 賃金	緩やかに持ち直している	-
7. 個人消費	持ち直しの動きが見られる	-
8. 住宅投資	一時的に増加している	-
9. 公共投資	横ばい圏で推移している	-

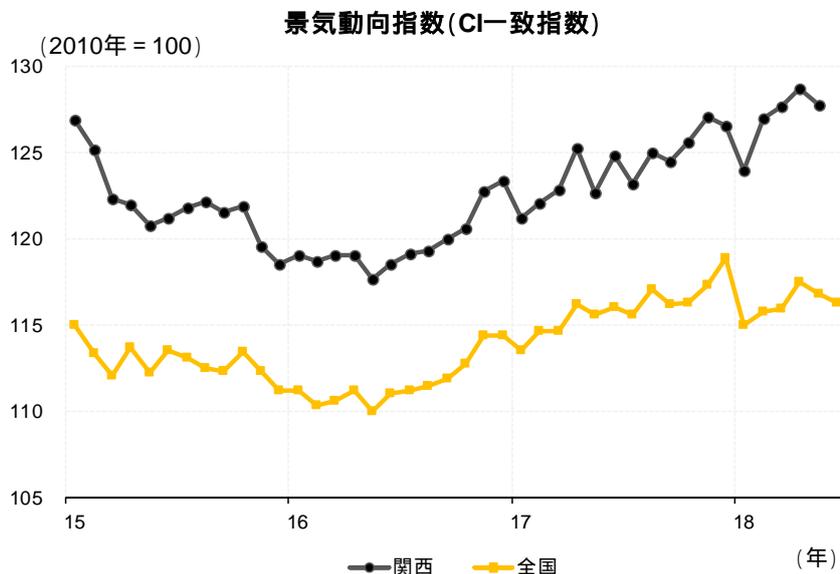
(注) 前月のコメントが現状と同じ場合は - と表記

【今月のポイント】

- ・百貨店売上は、6月に夏のバーゲン前倒し等で増加したのち、7月は 豪雨、猛暑の影響等により前年比減少。豪雨はインバウンドにも影響。
- ・6月の生産は前月比+0.8%の増加。6月18日の地震の影響は限定的であった模様。

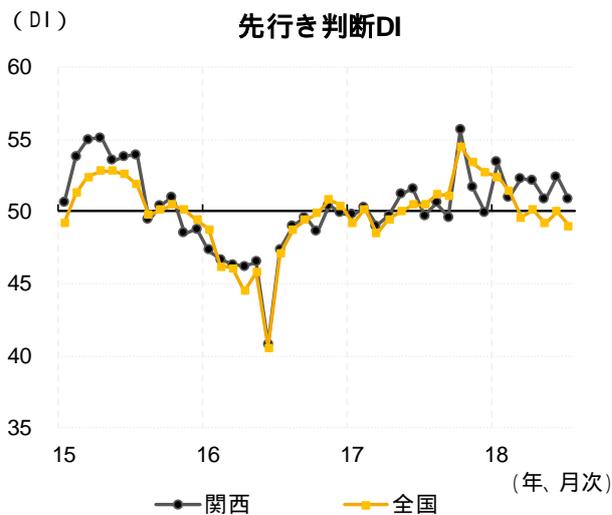
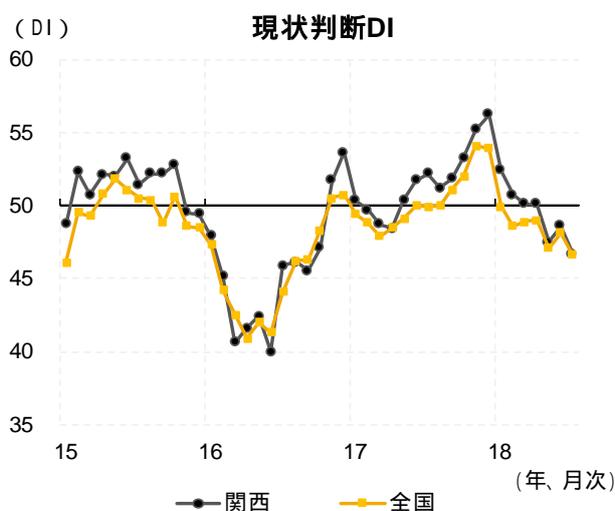
1. 景気全般 ~ 緩やかに持ち直している (先行き: 持ち直し)

5月の関西の**景気動向指数・CI一致指数**は前月差 - 0.9ポイントの127.8と4ヶ月ぶりに低下したが、均して見ると緩やかに持ち直している。



(出所) 内閣府「景気動向指数」、大阪府「近畿地区景気動向指数の動き」

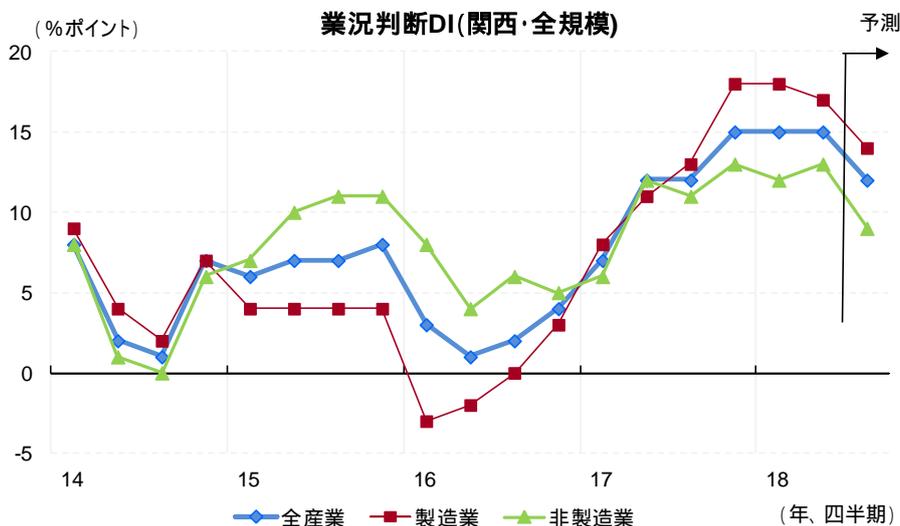
景気ウォッチャー調査によると、7月の関西の**現状判断DI**(季節調整値)は前月差 - 1.9ポイントの46.7と2ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を3ヶ月連続で下回った。関西のウォッチャーの景況感は、昨年末がピークとなり、足下で弱い動きが続いている。**先行き判断DI**(季節調整値)は、同 - 1.6ポイントの50.8と2ヶ月ぶりに低下した。



(注) DIは季節調整値
(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

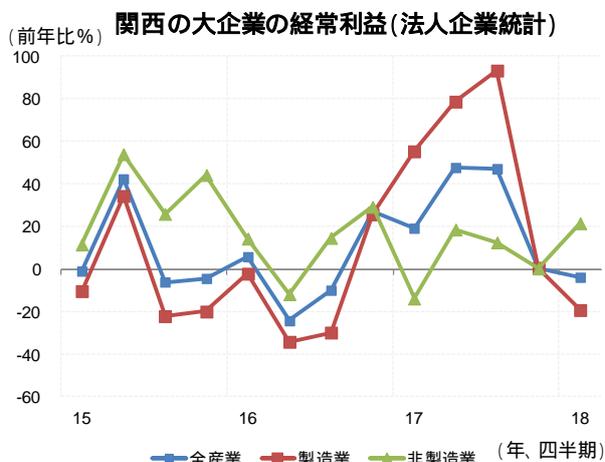
四半期データのため、本頁は前号から変更なし

関西企業の景況感について日銀短観6月調査を見ると、業況判断DIは全産業(全規模)で+15と前回3月調査と同水準となった。製造業(全規模)は+17と3月調査より1ポイント悪化し、非製造業(全規模)は+12と1ポイント改善した。先行きについては、全産業、製造業、非製造業共に悪化が見込まれている。

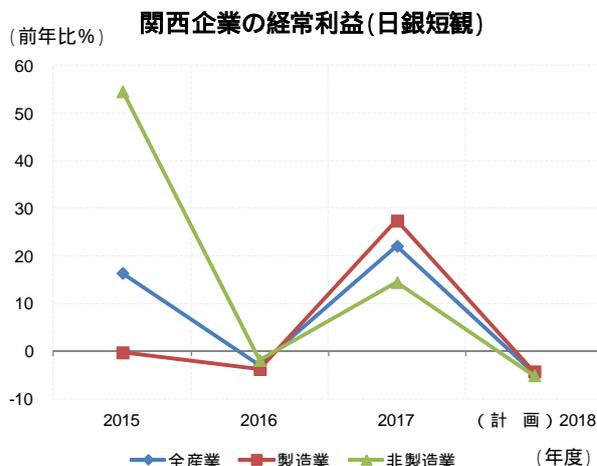


(出所)日本銀行大阪支店「企業短期経済観測調査(近畿地区)」

関西企業の収益動向について法人企業統計を見ると、2018年1~3月期の経常利益(全産業)は、前年比 - 3.8%と6四半期ぶりに減少した。非製造業は同 + 21.6%と4四半期連続で増加したが、製造業が同 - 19.2%と6四半期ぶりに減少した。日銀短観6月調査では、17年度の経常利益は全産業で同 + 22.1%、製造業で同 + 27.4%、非製造業で同 + 14.5%となった。18年度は全産業で同 - 4.6%、製造業で同 - 4.3%、非製造業で同 - 5.1%と計画されているが、水準は高い。



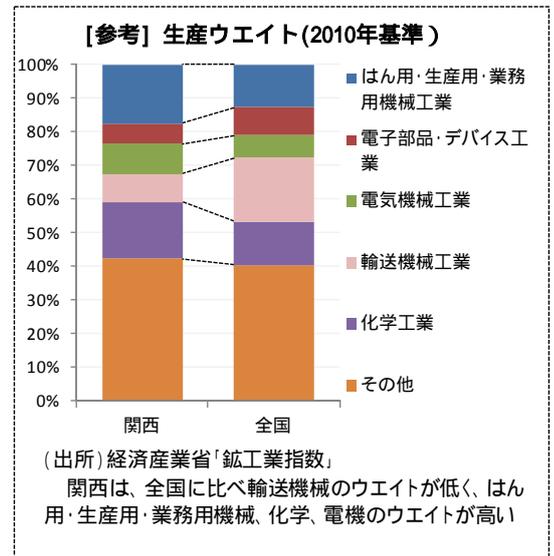
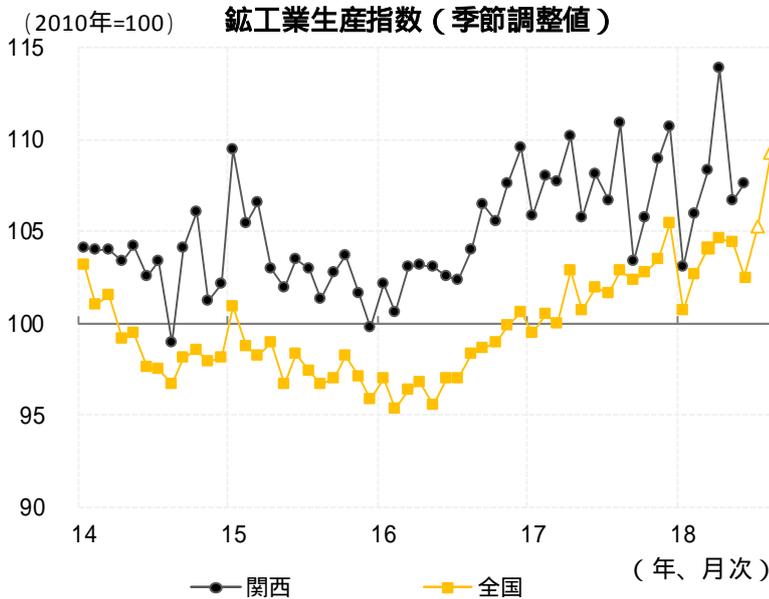
(注) 資本金10億円以上の法人(除く金融・保険)
(出所) 近畿財務局「法人企業統計調査」



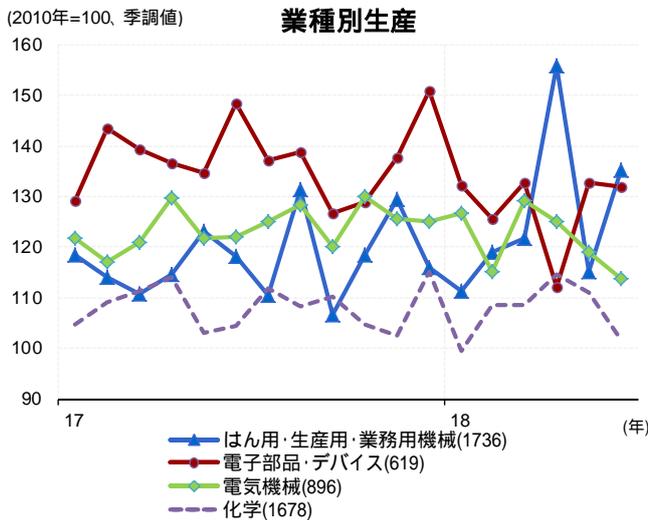
(出所)日本銀行大阪支店「短観」

2. 生産 ~横ばい圏で推移している (先行き: 緩やかに持ち直し)

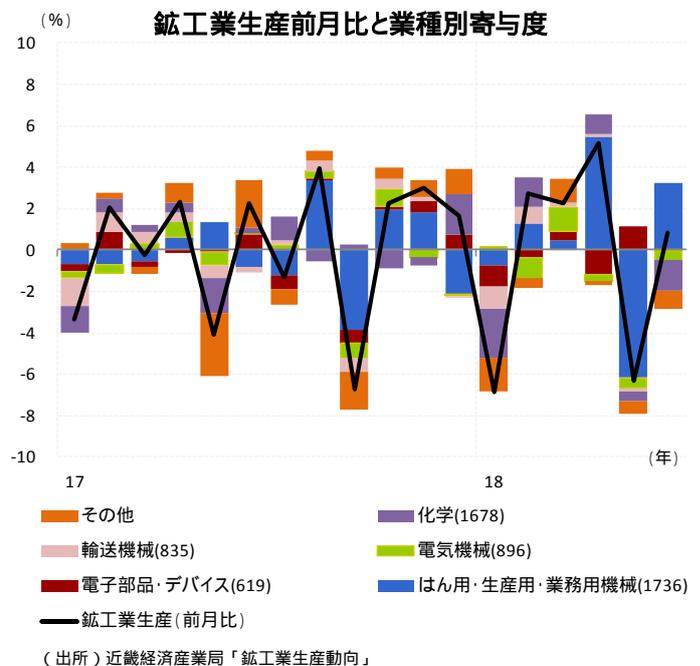
6月の関西の**鉱工業生産**は、前月比+0.8%と2ヶ月ぶりに増加した。化学(除医薬品)、電気機械、金属製品などが減少したが、はん用・生産用・業務用機械、非鉄金属、鉄鋼などが増加した。近畿地区の生産は均して見ると横ばい圏で推移している。



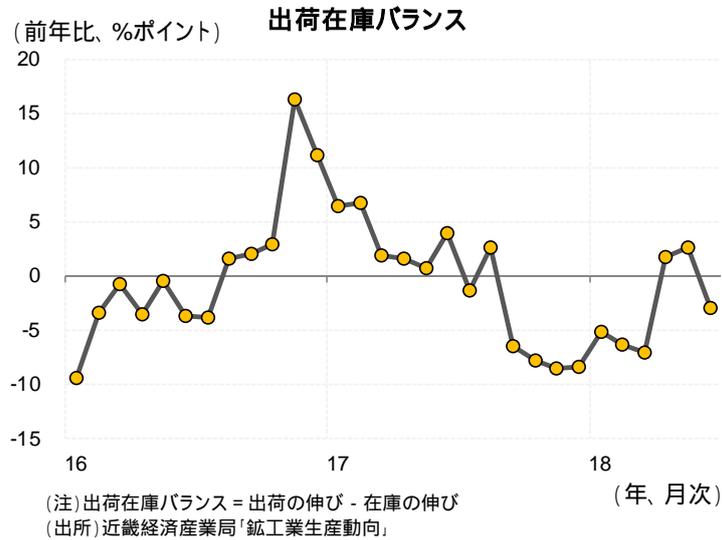
(注) 生産(全国)の「□」は製造工業生産予測調査結果に基づく予測。
(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」



(注) 凡例の括弧内の数字は付加価値ウエイト(鉱工業=10,000)
(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」



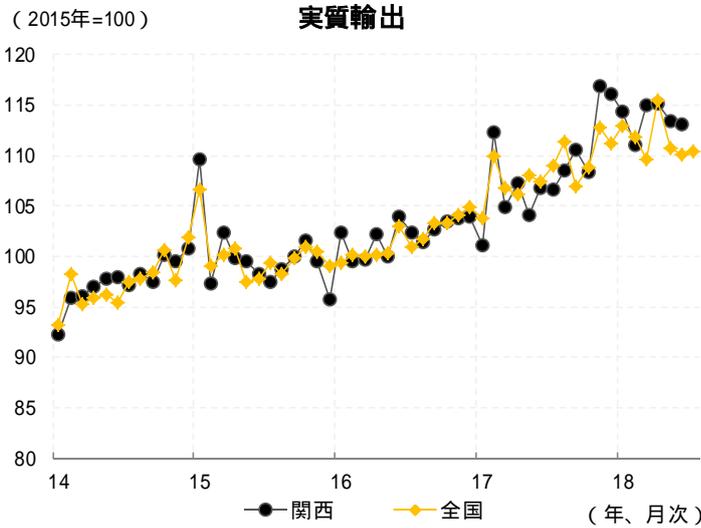
出荷の伸びから在庫の伸びを引いた**出荷在庫バランス**(出荷の伸び - 在庫の伸び)は、6月は電子部品デバイス、電気機械などの出荷が減少した一方、はん用・生産用・業務用機械などの在庫が増加したことから、3ヶ月ぶりにマイナス圏となった。



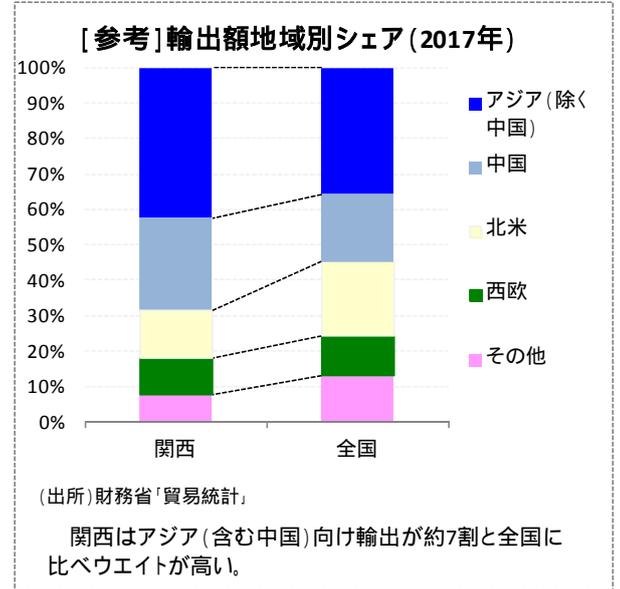
統計未公表のため本項目は前号から変更なし

3. 輸出入 ~ 輸出は増加基調、輸入は横ばい (先行き: 輸出は増加基調、輸入は横ばい)

6月の関西の**実質輸出**は前月比 - 1.3%と2ヶ月連続で小幅減少したが、均して見ると増加基調で推移している。



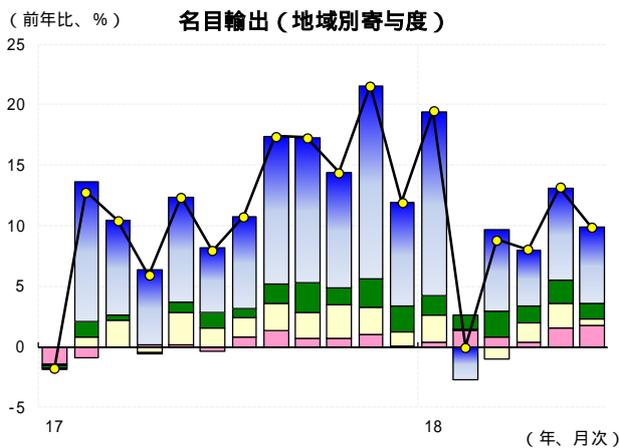
(出所) 日本銀行大阪支店「実質輸出入」



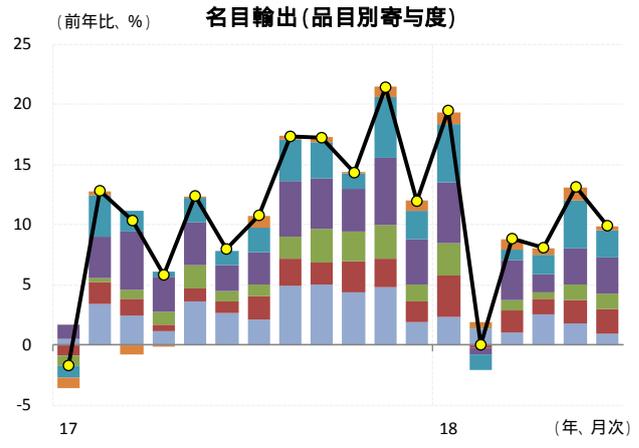
(出所) 財務省「貿易統計」

関西はアジア(含む中国)向け輸出が約7割と全国に比べウエイトが高い。

6月の**名目輸出額**は前年比 + 9.9%と4ヶ月連続で増加した。地域別では、米国は3ヶ月連続、EUは14ヶ月連続、アジアは4ヶ月連続で増加した。品目別にみると、科学光学機器(同 - 12.8%)、などが減少したが、半導体等電子部品(同 + 15.0%)、原動機(同 + 54.9%)などが増加した。

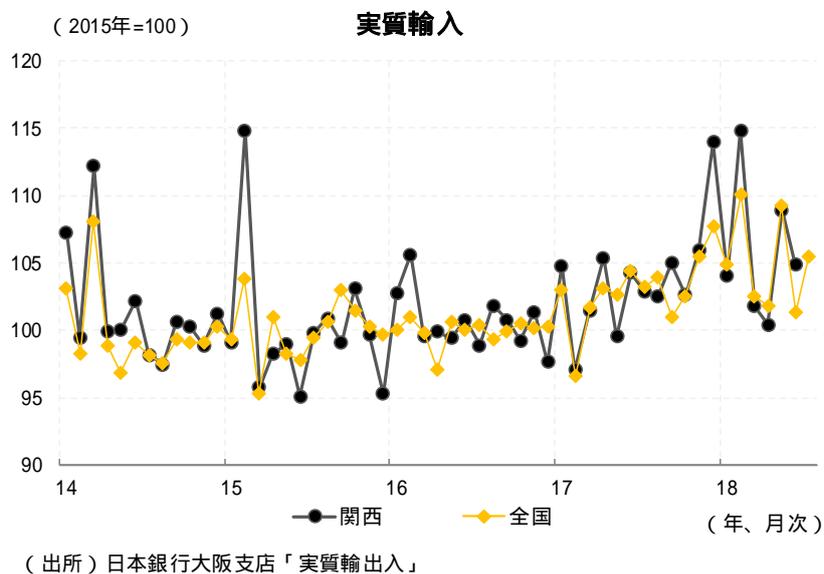


(出所) 大阪税関「近畿圏貿易概況」



(出所) 大阪税関「近畿圏貿易概況」

6月の関西の実質輸入は前月比 - 3.7%と2ヶ月ぶりに減少したが、均して見ると横ばいとなっている。



4. 設備投資 ~ 持ち直している (先行き: 持ち直し)

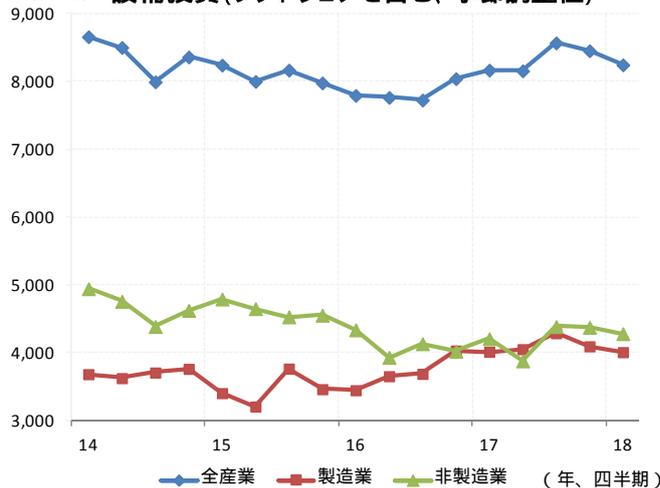
法人企業統計によると2018年1~3月期の関西の大企業の設備投資(ソフトウェアを含む)は前年同期比+0.9%と6四半期連続で増加したが、伸び率は鈍化した。一方、季節調整値(MURC試算)の動きを見ると、このところ弱含みとなっている。

設備投資の前年比伸び率(全産業、%)

	関西	全国
17年 1-3月	4.8	4.5
4-6月	4.2	1.5
7-9月	11.3	4.2
10-12月	5.3	4.3
18年 1-3月	0.9	2.8

(出所)財務省「法人企業統計調査」

(億円) 設備投資(ソフトウェアを含む、季節調整値)

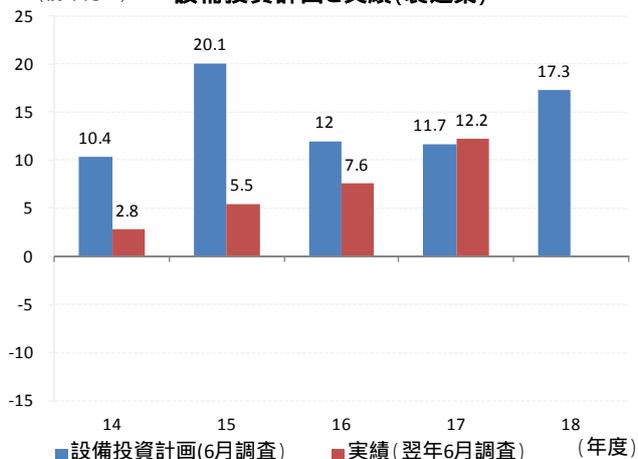


(注) 季調はMURC

(出所)財務省「法人企業統計調査」

日銀短観6月調査によると、関西の17年度の設備投資は、全産業で前年比+4.3%(3月調査同+9.6%)と増加した。内訳を見ると、非製造業は同-1.3%(同+6.1%)と減少したが、製造業は同+12.2%(同+14.4%)と増加した。18年度については、全産業で同+17.2%、製造業で同+17.3%、非製造業で同+17.2%と計画されている。

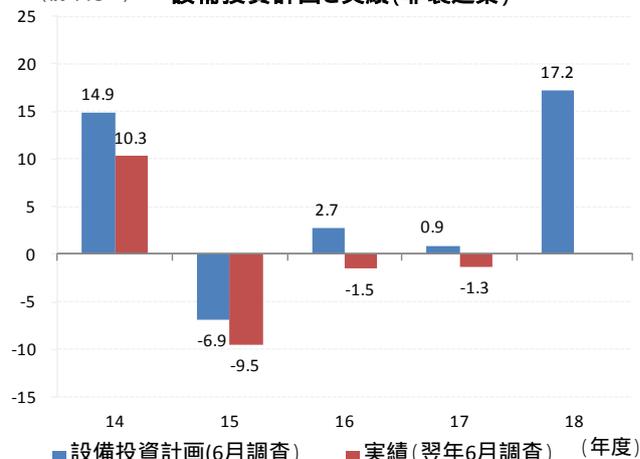
(前年比%) 設備投資計画と実績(製造業)



(注) 設備投資は含む土地投資額

(出所)日本銀行大阪支店「短観」

(前年比%) 設備投資計画と実績(非製造業)

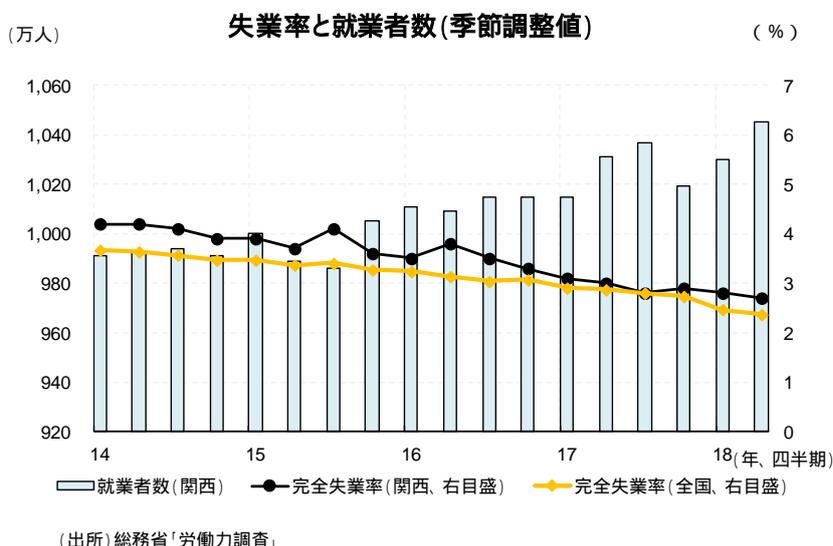


(注) 設備投資は含む土地投資額

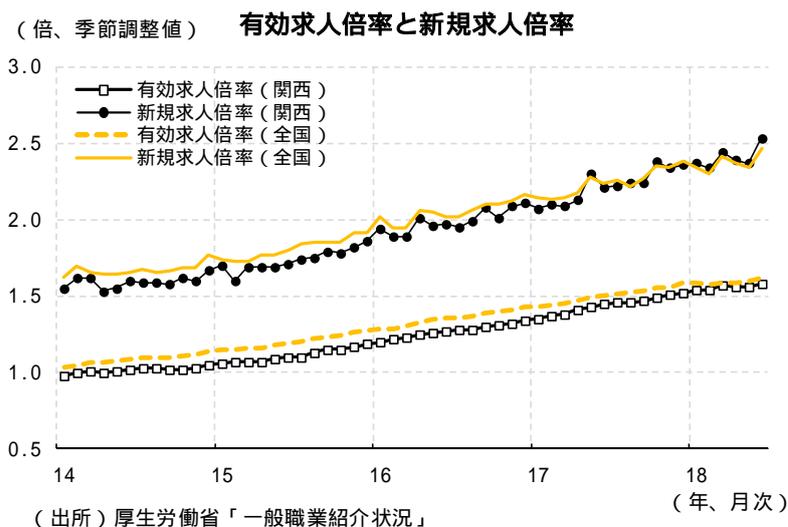
(出所)日本銀行大阪支店「短観」

5. 雇用 ~ 改善している (先行き: 改善)

4-6月期の関西の**完全失業率**(季節調整値)は前期差 - 0.1%ポイントの2.7%となった。**就業者数**(季節調整値)は同15万人増加し、完全失業者数(季節調整値)は同1万人減少した。

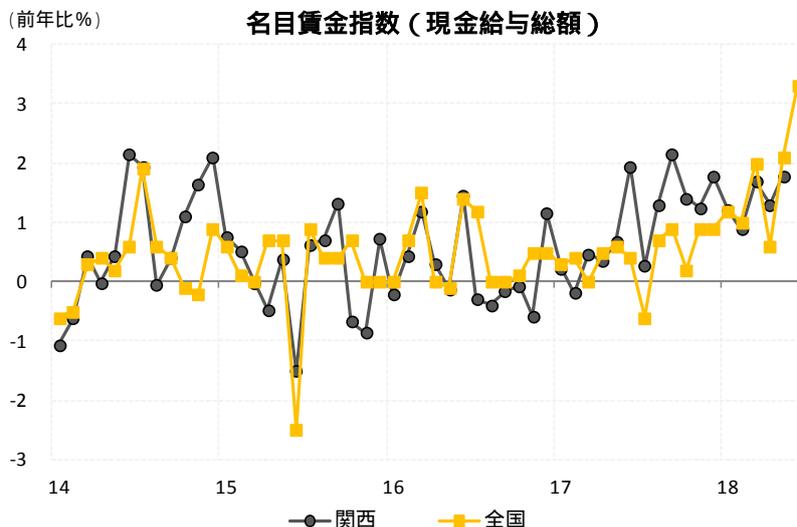


6月の関西の**有効求人倍率**は1.58倍と2ヶ月ぶりに上昇した。**有効求人数**は前月比 + 0.7%と増加し、有効求職者数は同 - 0.8%と減少した。有効求人倍率に先行する**新規求人倍率**は2.53倍と上昇した。新規求人数は前月比 + 2.1%と増加し、新規求職申込件数は同 - 4.4%と減少した。



6. 賃金 ~ 緩やかに持ち直している (先行き: 緩やかに持ち直し)

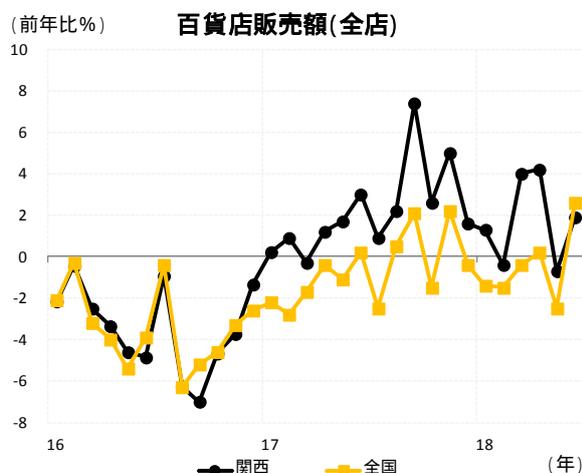
5月の関西の**名目賃金指数(現金給与総額)**(MURC試算)は、未公表の滋賀を除くベースで前年比+1.8%となっている。



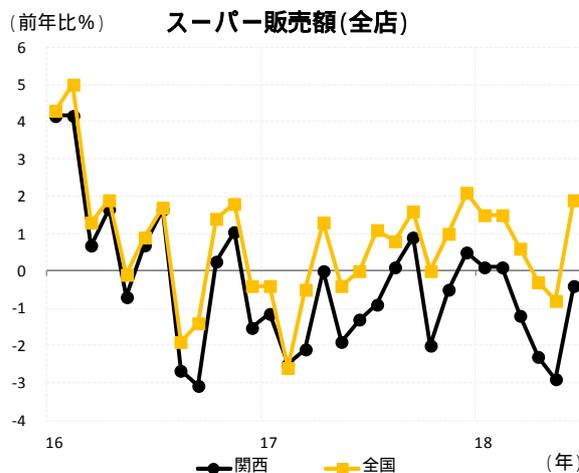
(注) 関西2府4県の名目賃金指数を常用労働者数で按分し合成したもの、MURC試算 (年、月次)
 (出所) 厚生労働省、各県「毎月勤労統計」

7. 個人消費 ~ 持ち直しの動きが見られる (先行き: 緩やかに持ち直し)

6月の関西の**百貨店販売額(全店)**は、前年比+1.9%と2ヶ月ぶりに増加した。大阪北部地震で一部店舗の営業時間減少などあったが、夏のバーゲンの前倒し効果やインバウンドの好調がプラスに寄与した。一方、**スーパー販売額(全店)**は同-0.4%と4ヶ月連続で減少したが、減少幅は縮小した。飲食料品は前年を上回ったが、衣類が前年を下回った。

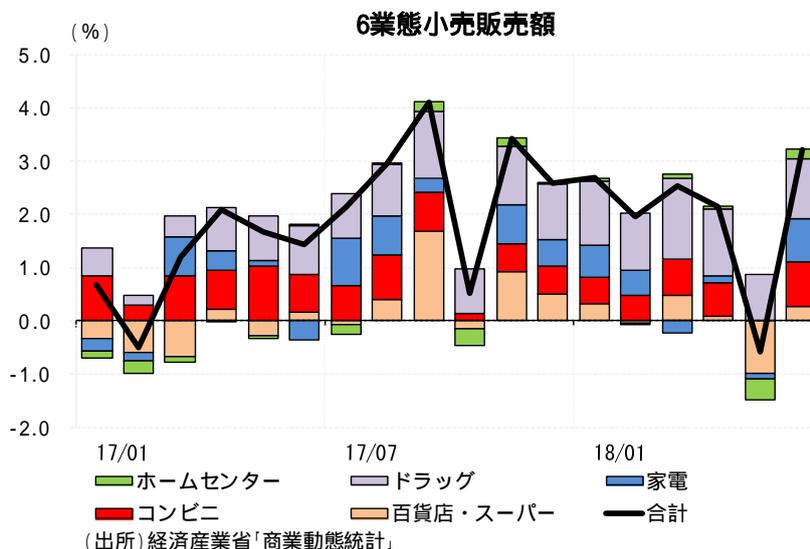


(出所) 経済産業省「商業動態統計」

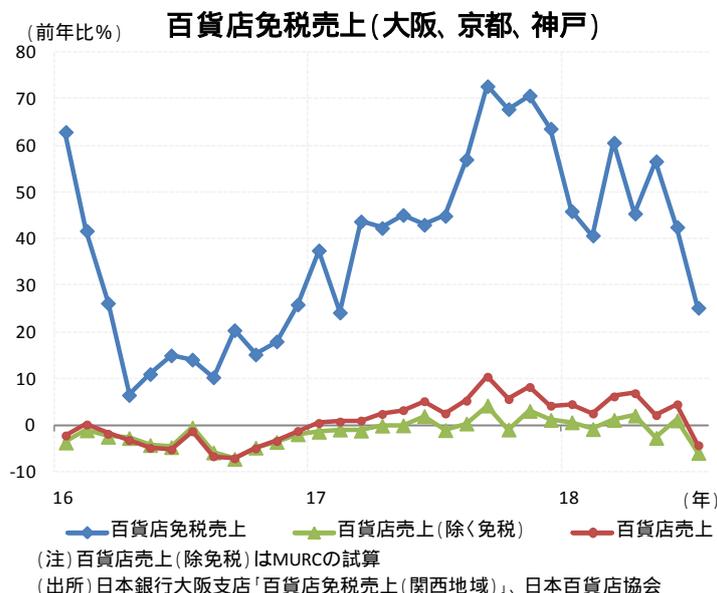


(出所) 経済産業省「商業動態統計」

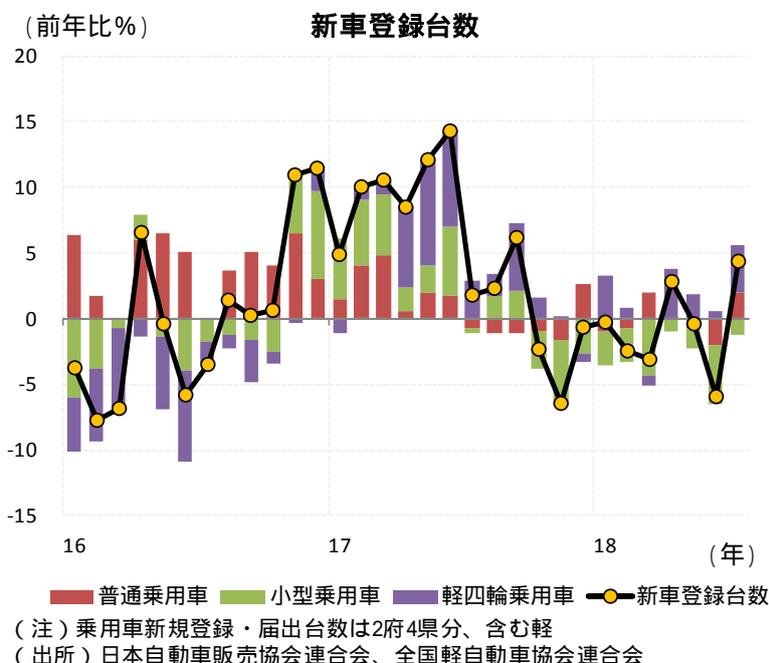
6月の商業動態統計調査 6業態の販売額の合計は、前年比+3.2%と2ヶ月ぶりに増加した。6業態すべてが増加した。



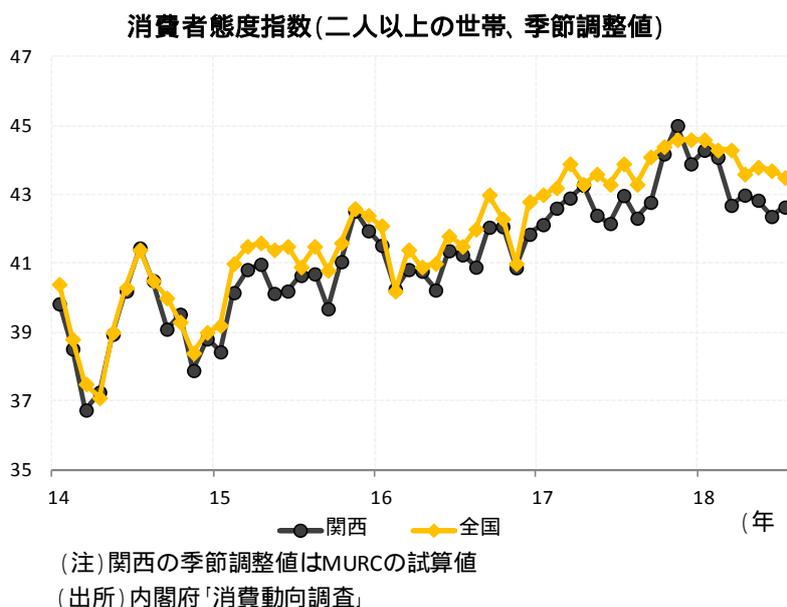
7月の百貨店免税売上(大阪、京都、神戸)は、前年比+25.2%と大幅な増加が続いているが、伸び率は縮小した(同月の免税売上比率は8.9%)。6月の大阪北部地震や西日本豪雨による旅行取りやめの動きが影響した。百貨店売上から免税店分を除いた国内向け売上(MURC試算)は、同-5.9%と2ヶ月ぶりに減少した。百貨店売上げ全体では、同-4.3%と19ヶ月ぶりに減少した。豪雨、猛暑、6月に実施した夏のバーゲン前倒しの反動などが影響した。



7月の関西の**新車登録台数(乗用車、含む軽)**は前年比+4.4%と3ヶ月ぶりに増加した。小型車(同-3.8%)は10ヶ月連続で減少したが、普通車(同+5.5%)は4ヶ月ぶりに、軽自動車(同+11.4%)が4ヶ月連続で増加した。

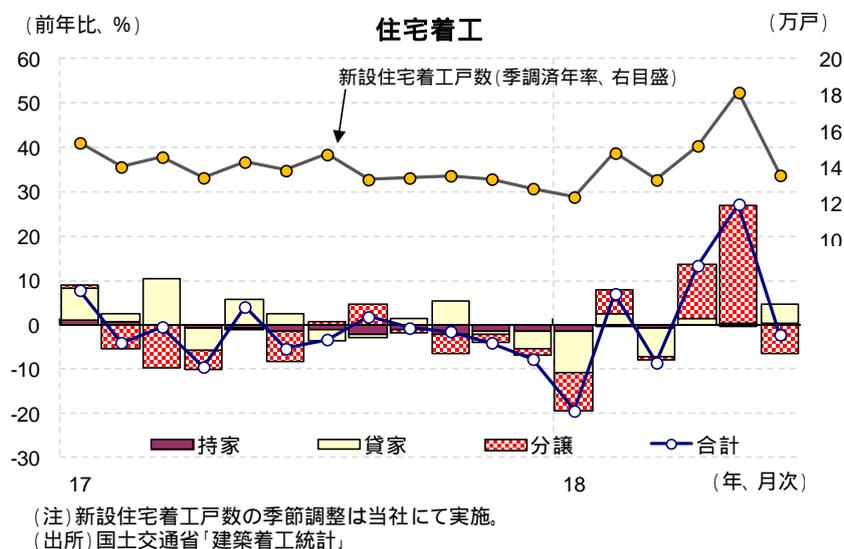


消費者マインドを表す**消費者態度指数(季節調整値: MURC試算)**は、昨年12月をピークに弱い動きが続いている。



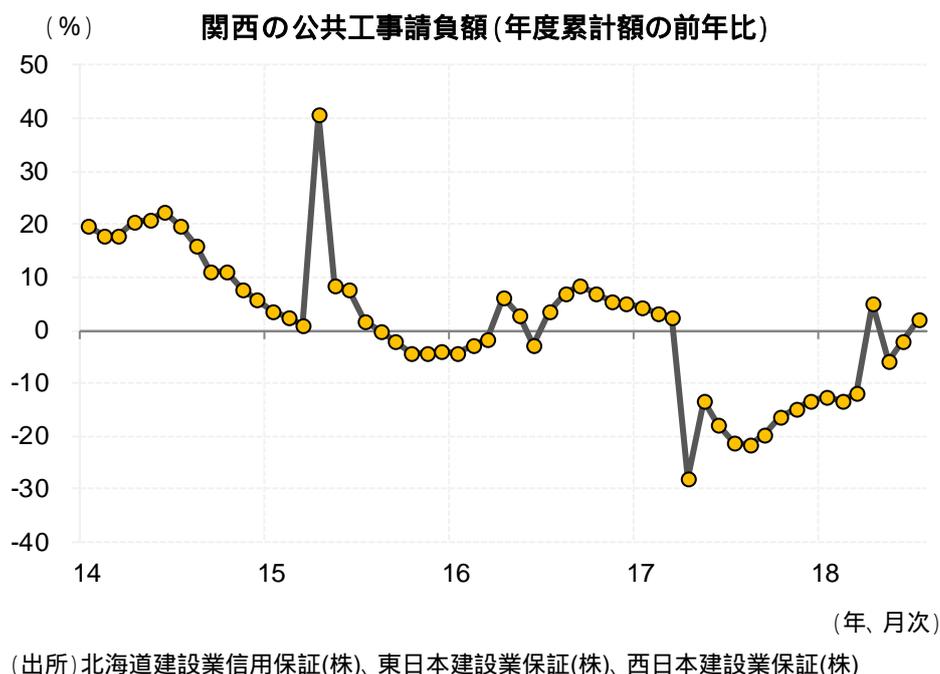
8. 住宅投資 ~ 横ばい圏で推移している (先行き: 弱含み)

6月の関西の住宅着工戸数は、季調済年率(MURC試算)で13.6万户と3ヶ月ぶりに減少した。また、原数値の前年比では-2.2%の11,737戸と3ヶ月ぶりに減少した。5月に前年比で大幅増となったマンションが6月は大幅減となった。



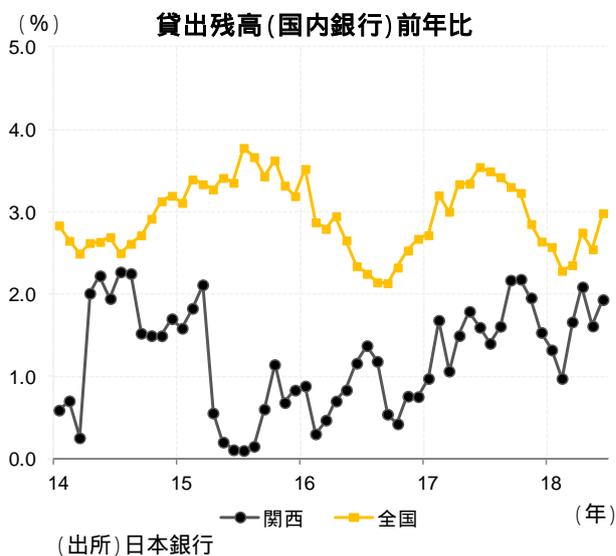
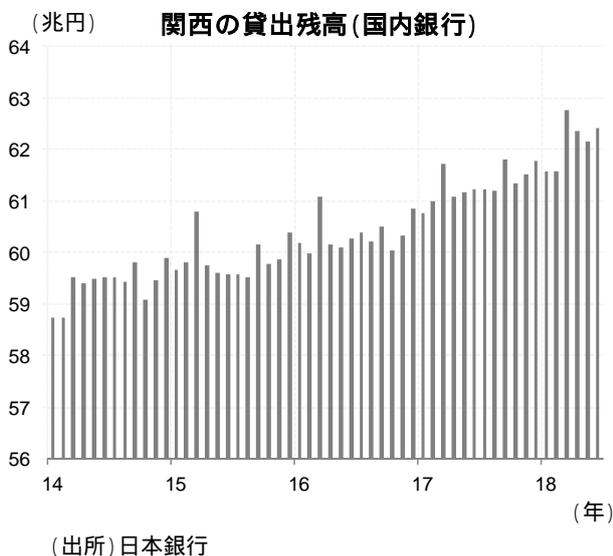
9. 公共投資 ~ 横ばい圏で推移している (先行き: 横ばい圏)

7月の関西の公共工事請負額(年度累計額)は、前年比+2.0%と3ヶ月ぶりに増加した。また、7月単月では前年比+17.1%の1,409億円と2ヶ月連続で増加した。関西の公共投資は、均して見ると横ばい圏で推移している。



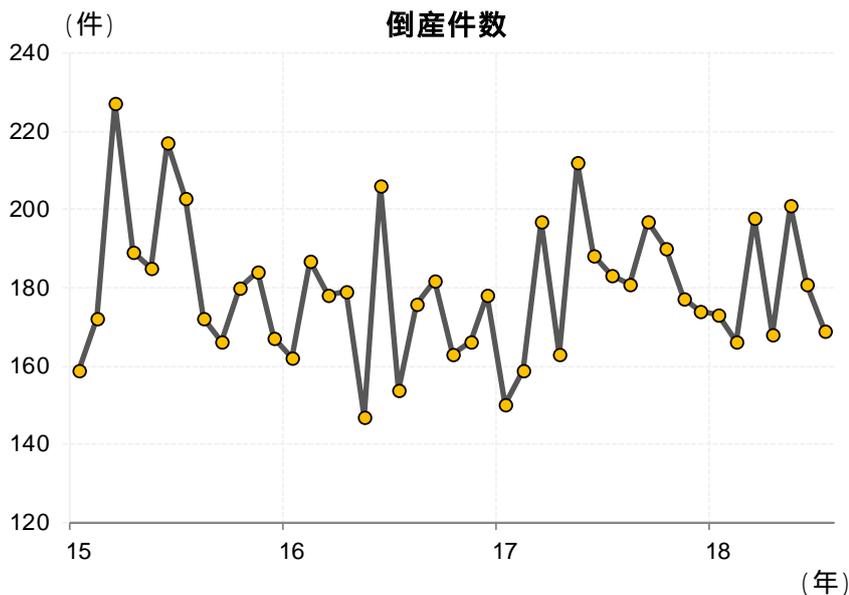
10. 貸出 ~ 貸出は増加

関西の6月の**貸出残高**(国内銀行ベース)は、同+1.9%の62.4兆円となった。日銀大阪支店では「企業向けや住宅ローンの増加などを背景に」貸出が増加しているとみている。



11. 倒産 ~ 倒産件数は減少

7月の関西の**倒産件数**は、前年比 - 7.7%の169件(前年同月183件)と3ヶ月連続で減少した。一方、倒産企業の負債総額は同 - 13.7%の224億円と、2ヶ月ぶりに減少した。



(出所) 東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡ください。